

令和3年度「未来を創る学力向上支援事業」に係る  
第2回学力向上検証会議

1. 目的

- 令和3年度の本県の学力向上対策の総括を行い、今後の施策の改善充実を図るとともに、令和4年度の学力向上対策について、外部有識者や各市町村教育委員会学校教育主管課長等との協議等を通して、本県の児童生徒の学力向上に資する。

2. 主催 大分県教育委員会

3. 期日 令和4年2月2日（水） 13：30～16：00

4. 場所 オンライン開催

5. 内容

① 開会行事

＜挨拶＞大分県教育庁義務教育課長 武野 太

■コロナ禍をきっかけに学校の風景が変わった

- 各教室での、教師がチョークと黒板を用い、子どもたちは机の上に紙の教科書とノートを広げ、鉛筆を使い板書を写し、教師から指名されたら発表をするといった風景、また、運動会や修学旅行、卒業式などの学校行事、中学校の放課後の部活動など、どの学校でも当たり前になされていた教育活動が、コロナ禍をきっかけに急速に変化してきた。
- それに伴い、各学校では、これまでの教育活動が真に目的達成のために効果的なのかの観点で、また、教師の働き方改革も相まって、見直されている。
- その様な中、一人一台端末に代表される教育のデジタル化も推し進められている。教師や子どもたちがこのツールを使いこなし、真の目的が達成され、子どもたちに育成すべき資質・能力が身につくことが大切。
- デジタル化が進展しても、教師が授業の質を上げていくことと子どもたちの学びの意欲を高めることは、子どもたちの学力を高めるために不変。

■全国学力・学習状況調査で、良好な結果を残した県の特徴

- 学校質問紙からの特徴としては、全国学力・学習状況調査結果を自校の課題把握や授業改善に活用し、学習指導要領の理解を深めるために出題意図を確認するという取組が全学年でなされ、徹底されている。また、ICT関係の研修もよく行われている。
- 授業改善では、「発言や活動の時間を確保」「課題を設定し、グループで話し合い、まとめ、表現する活動」も徹底されている。
- 評価では、「児童生徒のよい点、改善点を積極的に評価、学習の意義や価値が実感できる」ように努めている。
- 児童生徒質問紙からは、「各教科などで学んだことを活かしながら新しい物を作り出す活動をよく行った」「自分に合った教え方、教材になっていた」の数値が高い。
- 総合的な学習の時間では、探究の過程を意識した指導が行われ、学級会も活発といったことが分かるとしている。

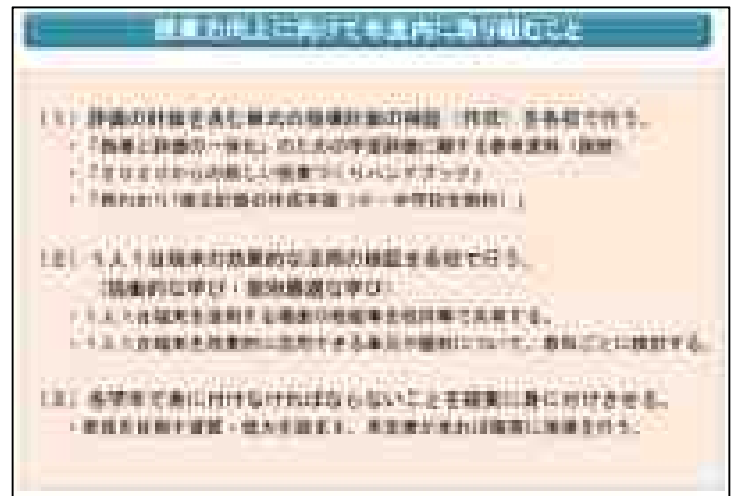
■これまでの本県の学力向上策と今後

- 大分県教育委員会は、これまで、児童生徒の学力を高めるために、「新大分スタンダード」を授業に必要な基本の要素とし、教師の授業の質の向上と、中学校学力向上対策3つの提言等で、学びの態度の向上を図ってきた。
- 再度、全国・県、そして、各自治体で行われた学力・学習状況調査結果を組織的に分析し、授業の質と子どもたちの意欲の向上につなげていただきたい。
- 今年度中に子どもたちに身に付けることは、次の年度に積み残すことなく今年度中に身につけさせるよう管内の学校のご指導をお願いしたい。

## ② 説明「令和3年度未来を創る学力向上支援事業の総括について」

＜説明者＞大分県教育庁義務教育課

- 「2020からの授業づくりハンドブック」「早わかり！単元計画の作成手順」等を活用した実践や研修の充実
  - 統一した資料による共通理解が図られ、単元構想を意識した授業づくりが組織的・計画的に進みつつある。
  - 学校・教科等により単元の指導計画の作成等の取組の差が見られる。児童生徒の実態に応じ、単元の指導計画の見直しを行う等今後も一層の充実が必要。
- 家庭学習を含めた1人1台端末の効果的な活用等による指導方法・指導体制の工夫改善
  - 授業において、児童生徒の考えを整理したり交流したりする場面でICTを活用できている。
  - ICT活用について「効果的に活用する」といった活用促進のフェーズに移行する必要がある。家庭学習におけるオンラインでの学習及び環境の整備も必要。
- 小学校高学年における教科担任制の推進 ⇒ 「分かる・楽しい」授業
  - 児童質問紙調査と全国学力・学習状況調査の結果により、その有効性を実証できている。
  - 小規模校や極小規模校における教科担任制推進の在り方が課題。
- 「授業力向上アドバイザー」による経験年数の浅い教員への指導支援
  - 特色ある取組により、効果的な人材育成が図られている。
  - 校内の人材育成の体制の構築等、効果的な指導や支援の充実が必要。
- 中学校学力向上対策「3つの提言」のさらなる充実
  - 多くの市町村で、校内研究や授業公開、互見授業の取組が積極的に行われており、授業改善や授業力向上の機会としている。
  - 拠点校以外の学校における体制づくりや、教師間や教科による意識の差の解消が課題。
- 自己有用感や達成感を味わわせる活動の工夫
  - 目的や付けたい資質・能力を明確にして、児童生徒と共有しながら学校行事等を構築していくなど、創意工夫された取組をすすめていくことが必要。
- キャリア・ノート等を活用した「目標をもって生きる意欲や態度」の育成
  - キャリア・ノートをもとに系統的なキャリア教育を意識した取組がすすんでいる。
  - 書かせるだけでなく、どのように活用して（生かして）いくかが課題。



## ③ 報告「GIGAスクール構想推進の取組について ～1人の100歩より100人の半歩～」

＜報告者＞玖珠町教育委員会

- 小学校の校舎内の無線LAN (Wi-Fi) 環境整備 → R2.11 整備完了
- 情報端末の整備 → R2.10 児童生徒への配布完了
- 児童生徒の家庭約1割にインターネット環境がない → SIMカードを町負担で貸与
- インターネット環境整備のための補助金 → 1世帯2万円の補助、低所得世帯へ通信費月額1,000円の援助
- 5割の先生が、端末導入のよさを実感。毎日ほぼ全ての端末がログイン。
- いくら、文科省や県教委・地教委がやる気を出しても実際に利活用する、学校がやる気にならなければ1人1台の端末も高速通信も無駄に…
- まずは、学校長（学校CIO）のやる気に灯をつける
- 教職員研修 …… 研修の様子を町内各校に配信
- ICT支援員（2名） …… ICT活用のための通信を作成、無くてはならない存在。

- 有事に備えたオンライン授業体験（小） …… 午前中で児童を家に帰して、午後は家庭からオンライン授業（避難訓練と同じ）
- デンマークの小学校との交流
- くす星翔中 …… 全教科デジタル教科書を整備、情報端末は毎日持ち帰り、日報・日課表をクラウドで共有
- コロナ臨時休校（中） …… 通常の日課に近い形で4日間、すべての教科でオンライン授業
- 町独自テストのCBT化の取組（中） …… 令和3年度3回実施（中学校英語）1度目は失敗、2度目はほとんどの生徒がオンラインでテスト完結。集計、採点が自動で即時にできるため、負担軽減大。

#### ④ まとめ

＜指導助言＞大分大学名誉教授 山崎 清男 氏

##### ■大分県の学力向上の取組について

- これまでの取組で一定の成果が出ており、学力保障の視点も盛り込まれている。
- 今後はこの学力向上の取組を授業改善だけに留まらず『所属感が感じられ、安心して学べる。』
- 学級集団を児童生徒とともに創る（人権教育）』視点を強調していくとよい。

##### ■教科担任制について

- 「授業の質の向上」「教員の負担軽減」に効果のある取組であるが、一方で「学級担任制のよさ」もある。今後は学級担任と教科担任間でさらに情報交換を密にし、組織的に教科担任制を進めていく必要がある。

##### ■GIGAスクールについて

- 「個別最適な学び」はとても重要で、一人一台端末の活用促進は十分理解できるが、一方で「タブレットは、自分で考えなくてもすぐに答えを教えてくれる」と感じている子どももいるようである。
- また自分の経験からも「現代の若者はすぐに答えを求める傾向にある」と感じる場面がある。
- 個別最適化は効率的ではあるが、「答えを出すまでの過程を話し合うこと」や「自分とは異なる多様な考えに触れること」の重要性も忘れてはいけない。

#### ⑤ 講演『『教育県大分』の創造に向けて』

＜講師＞ 大分県教育庁教育次長 米持 武彦

『教育県大分』の創造に向けて歩み出す

1. 「全国に誇れる教育水準」での「学校像」、「教職員像」を議論
2. 県が施策として示す『「新大分スタンダード」の未来像』を議論
3. 子どもの自立した学びを創り出す「授業像」「家庭学習像」「社会教育施設像」を議論
4. 資質・能力ベースで内容や時間を整理し、力と意欲を付ける「教育課程像」を議論

(了)